

椿原正和 PISA型対応「基礎的読解力」指導法

講師依頼等連絡先（椿原宛メール）

tsubakihara.masakazu@toss2.com



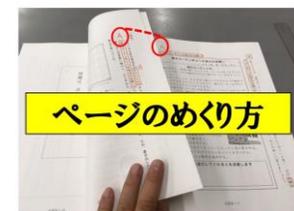
「基礎的読解力」指導法とは

難関とされる全国学テ国語条件付き記述問題を「3つの作業」によって全員の答えをほぼ同じにすることができる指導法である。3つの作業「①丸で囲む②線で結ぶ（エアライン）③+α（・題名・条件）」を行うことで、どの子も国語記述式問題が解けるようになる。そしてこの指導法は、PISA型読解力を測る問題にも対応することができる。

子どもにとっての「3つのストレス」

- 1 ページを何度もめくって戻るストレス
⇒指をページの間に挟み、往復しやすくする。
- 2 初出の文章だというストレス
⇒リード文の「」（かぎ）で強調された言葉と太字になっている言葉を丸で囲む。
- 3 情報量が多い（資料数、文章の長さ）というストレス
⇒強調された言葉を丸で囲み、線で結ぶと、答えがどの資料にあるのか限定される。

ページのめくり方



PISA

①情報を探し出す

- テキスト中の情報にアクセスし、取り出す
- 関連するテキストを探し出し、選び出す

②理解する

- 一字句の意味を理解する
- 統合し、推論を創出する

③評価し、熟考する

- 質と信ぴょう性を評価する
- 内容と形式について熟考する
- 矛盾を見つけて対処する

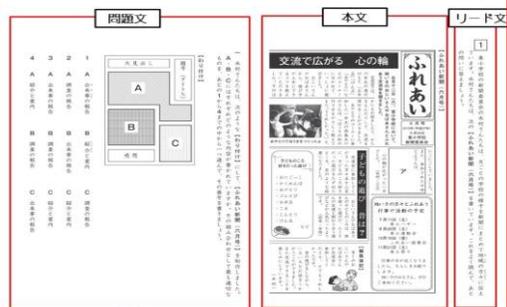
測定する能力

3つの作業
①○で囲む
②線で結ぶ
③+α
（エアライン）
・題名
・条件

問題全体の構造

大問は3つの構造でできている。

- ①リード文
- ②本文
- ③問題文



①情報を探し出す

取り出す

A. 読むな、見ろ！

本文全部を丁寧に読んでいては、時間が足りない。

「読むな、見ろ！」なのである。では、何を見るのか。

見出しを取り出す。

見出しを読むだけで、大まかな内容はつかめる。

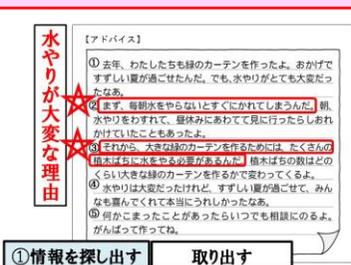


B. 段落に分けて取り出せ

文章から問われている部分を取り出す問題では、まず段落番号をつける。

情報を限定して読むことで内容が捉えやすくなる。

取り出す部分に★マークをつけておき、後ですぐに見つけられるようにしておく。



選び出す

C. 資料名を丸で囲む

リード文を読む時は、まず資料名を丸で囲む。

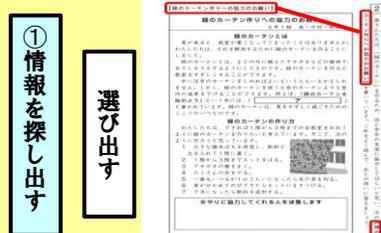
全国学テ問題では、資料名は全てゴシック体で強調されている。この作業で問題になっている資料がどれかすぐ分かる。

D. 線で結ぶ

資料名は、リード文や本文、問題文に何度も出てくる。

同じ言葉を丸で囲んだら、線で結ぶ。

線で結ぶことで、迷うことなく目的の資料だけを選び出し、内容をみる事ができる。



E. 線で結べない時は「エアライン」

資料と問題文を複数ページに渡って往復しながら考える問題がある。その時に、両方の資料に◎と書き込む。

これで、線で結んでいるのと同じような効果が得られる。「エアライン」と言いながら、ページをめくり資料を確認する。

②理解する

字句の意味理解、統合推論

F. 条件に対応する「+α」

条件付き記述問題には、答える時に落とすにはいけない「条件」が書かれている。その条件を確定していくのが

「+α（プラスアルファ）」である。

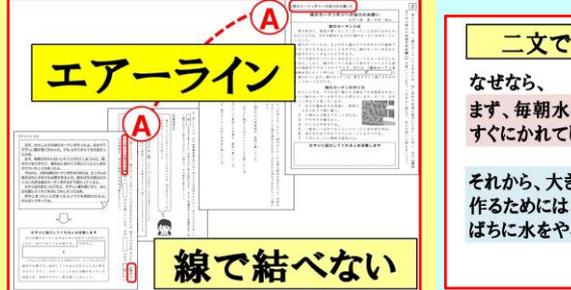
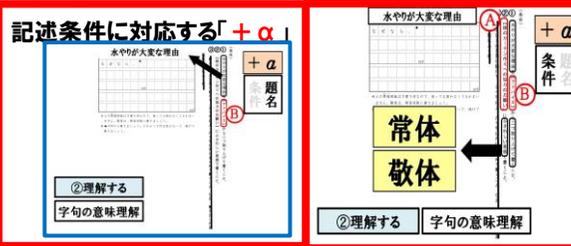
「条件」には、「内容」と「表現方法」が書かれている。

「内容」に関するキーワードを解答欄の上に「題名」として書いておく。

「表現方法」については、例えば、「理由」や「二つ取りあげて書く」「ふさわしい表現」等がある。それを丸で囲む。

この「条件」に適した表現で答える。

ちなみに「ふさわしい表現」というのは、文末を「常体」にするか「敬体」にするかである。これも落とすにはいけない「条件」である。



③評価し、熟考する

評価、熟考、矛盾への対処

G. 字数制限は考えない

記述問題の「条件」に「40字以上60字以内」等の字数制限がある。

その字数制限を線で消させる。

「条件」をきちんと満たした解答を書けば、字数の中に収まるように問題はできているのである。

H. 文をととのえる

「条件」に合った答えを見つけ、解答欄に書く際、文として正しい表現に直す必要がある。

「文をととのえる」と名付ける。

- ① 答えを見つける
- ② 文をととのえる
- ③ 答えをうつす

「条件の構造」

例えば、理由を書くときは「から」をつける、二文を一文にするときに接続詞の「し」を入れる。また、不必要な言葉は削る。

最後の詰めがとても重要である。

